

地域の底力

奈良県桜井市

新たな歴史を 紡ぎはじめた 古の「まほろば」 奈良県桜井市

飛鳥時代以前、約三〇〇年にわたり、
古代ヤマト王権の宮が置かれ、
仏教伝来の地ともいわれる桜井市は、
歴史的資産を大切に受け継ぎながら、
今、未来に向けて動き出す。

取材・文 山内史子
写真 野瀬勝一

奈良時代の創建とされる、国宝の長谷寺。写真の本堂は、徳川家光の寄進により1650年に完成した。長谷寺のほかにも、長い歴史を有する寺社、飛鳥時代以前のヤマト王権にまつわる古代の史跡など、桜井市には数多くの資産が点在している。

古代に礎が築かれた 歴史あるまちの転機

奈良県桜井市は県のほぼ中央、奈良盆地の東南に位置する。人口は、約五万七〇〇〇人。JR桜井線、近鉄大阪線の桜井駅がある上、奈良市までは約二〇キロ、大阪市へは約四〇キロと通勤圏に位置するため、ベッドタウンとして発展してきた。歴史好きの方なら、邪馬台国の有力候補ともいわれる纏向遺跡があると聞けば、心躍ることだろう。

飛鳥時代より前の三世紀前半か



ら六世紀後半、第十代崇神天皇から第三十二代の崇峻天皇までの宮が置かれていたといわれる、と桜井市長の松井正剛氏はまちの礎である古代の歴史を語る。

創祀が「古事記」「日本書紀」に記され、日本最古の神社といわれる大神神社、奈良時代に創建された国宝の長谷寺など、古から人々の心のよりどころだった社仏閣も数多い。六世紀、欽明天皇の時代に百済の使節が大和川からこの地に上陸し、仏教を伝えたという「仏教伝来の地」ほか、万葉集、相撲など数々の「はじまりの地」も残る。

「桜井市には、歴史を物語る素晴らしい資産がありますが、そうした状況に安住して生かせていなかった。また、昭和三十〜五十年



纏向遺跡の一角にある箸墓古墳。宮内庁により第7代孝靈天皇皇女の倭迹迹日百襲姫命の墓に指定されているが、邪馬台国を治めた卑弥呼の墓ではないかとの説もある。

代にかけては、木材やそうめんなど好調な地場産業に頼っていたこともありま

した。その後、それら地場産業が低迷すると、まち自体も活気を失っていった。過去の反省の下に、現在は歴史と文化を活用した観光・産業創造都市を目指そうとしています」

松井氏の現職就任は、二〇一一年。まずは市の財政の健全化を進めるなか、県とのまちづくり連携協定が結ばれ、観光関連のNPO法人や市民団体なども設立された。纏向遺跡の復元やガイダンス施設「桜井市纏向学術センター」の建設を含め、多様な事業計画が進行中だという。

なかでも関心を惹かれたのは、桜井市とその北に位置する天理市、西の磯城郡、東の宇陀市とが手を組んだ広域の観光対策だ。古代ヤマト王権発祥の地として「ヤ



「あたためていた事業計画が、この3年ほどの間で一気に動き始めました」と話す、桜井市長の松井正剛氏。10年先、20年先を見据えつつ、昭和30〜50年代のまちの勢いを取り戻したいと意気込む。

マト」と名付けられたエリアへの集客を目的として、外国人観光客向けのパンフレットも作成した。

「桜井市の観光客数は年間約七四〇万人ですが、日本人の日帰り観光がほとんど。広域観光エリア『ヤマト』を国内外に発信することで、通過型から滞在型への転換を図りつつ、外国人観光客の取り込みにも注力したいと考えています」

もとをたどり、なぜ、古代の人々がこの地を選んだのか、松井氏に投げかけてみた。

「災害が少ないんです。それが、昔から都が置かれた一番の理由ではないかと思えます。纏向に宮を置いたといわれる景行天皇の皇



上／百済の使節が降り立ったとされる大和川沿いに建てられた「仏教伝来之地碑」。下／大和国の当麻蹶速と出雲国の野見宿禰が日本で初めて相撲をとったといわれる場所には、相撲発祥の地として「相撲神社」が建立された。



続いてお話を伺ったのは、桜井木材協同組合理事長の岩本亨氏だ。「木のまち桜井」といわれる

吉野の山が支えてきた木のまち桜井

「吉野では吉野杉、吉野ヒノキで無節材（表面に節がない木材）をつくってきました。昔の家は、柱が表に出ているのでそうした無節材が好まれたことに加え、丁寧な仕事のおかげで、吉野産という名前で売れた時代が長く続きました。しかし、近年、壁の中に柱が隠れ、無節材を必要としない家が

増えたことが、吉野の木材にとって逆風になっています」
そうした状況に危機感を抱いた組合では最近、新たな展開に向けて舵をきった。そのひとつが、設立七〇周年を機に二〇一八年に建設された新事務所だ。

「かつての桜井市は、吉野、東吉野の山から切り出した丸太の集散地としてにぎわっていました」
岩本氏によれば、昭和四十年代には約二六〇社あった組合員の事業者数は、現在九六社に減少したという。その理由は、輸入材の影響。さらには、木材需要の変化も関係しているそうだ。

「かつての桜井市は、吉野、東吉野の山から切り出した丸太の集散地としてにぎわっていました」
岩本氏によれば、昭和四十年代には約二六〇社あった組合員の事業者数は、現在九六社に減少したという。その理由は、輸入材の影響。さらには、木材需要の変化も関係しているそうだ。

建物には、無垢材（丸太から切

り出したままの木材）をふんだんに使用。会議室や別棟のイベントホール、レンタルスペースをはじめ、市民が利用して木材の魅力を感じられる造りになっている。

「木の良さは言葉では伝わりにくい。体感してもらうために吉野の木材で建てたんです。木で建てる費用が高いと思われるかもしれませんが、実は鉄骨で建てるより安い場合もあります。しかも木造の家は湿気を木が吸収するので、結露を防げる。除湿器も乾燥機も要らないんです」

組合が一丸となり、事業を請け負う取り組みも進行中だ。「昔とは異なり各社の扱う建材

が分業化された今、一社だけすべての資材をまかなえない。ですから企業や公共施設の建設に対しては、組合がまとめる形で対応しています。組合員の材料を使っていただくことで、業界全体が伸びたらいい。公共施設の木質化など、組合として桜井市の特色が出る提案をしていきたいと思っています」

が分業化された今、一社だけすべての資材をまかなえない。ですから企業や公共施設の建設に対しては、組合がまとめる形で対応しています。組合員の材料を使っていただくことで、業界全体が伸びたらいい。公共施設の木質化など、組合として桜井市の特色が出る提案をしていきたいと思っています」

が分業化された今、一社だけすべての資材をまかなえない。ですから企業や公共施設の建設に対しては、組合がまとめる形で対応しています。組合員の材料を使っていただくことで、業界全体が伸びたらいい。公共施設の木質化など、組合として桜井市の特色が出る提案をしていきたいと思っています」

が分業化された今、一社だけすべての資材をまかなえない。ですから企業や公共施設の建設に対しては、組合がまとめる形で対応しています。組合員の材料を使っていただくことで、業界全体が伸びたらいい。公共施設の木質化など、組合として桜井市の特色が出る提案をしていきたいと思っています」

が分業化された今、一社だけすべての資材をまかなえない。ですから企業や公共施設の建設に対しては、組合がまとめる形で対応しています。組合員の材料を使っていただくことで、業界全体が伸びたらいい。公共施設の木質化など、組合として桜井市の特色が出る提案をしていきたいと思っています」



桜井木材協同組合理事長の岩本亨氏。地元へ貢献をとの思いから、新事務所やホール、駐車場などを災害時の緊急避難場所とする協定を、2018年11月に桜井市と結んだという。

が分業化された今、一社だけすべての資材をまかなえない。ですから企業や公共施設の建設に対しては、組合がまとめる形で対応しています。組合員の材料を使っていただくことで、業界全体が伸びたらいい。公共施設の木質化など、組合として桜井市の特色が出る提案をしていきたいと思っています」

が分業化された今、一社だけすべての資材をまかなえない。ですから企業や公共施設の建設に対しては、組合がまとめる形で対応しています。組合員の材料を使っていただくことで、業界全体が伸びたらいい。公共施設の木質化など、組合として桜井市の特色が出る提案をしていきたいと思っています」

が分業化された今、一社だけすべての資材をまかなえない。ですから企業や公共施設の建設に対しては、組合がまとめる形で対応しています。組合員の材料を使っていただくことで、業界全体が伸びたらいい。公共施設の木質化など、組合として桜井市の特色が出る提案をしていきたいと思っています」

が分業化された今、一社だけすべての資材をまかなえない。ですから企業や公共施設の建設に対しては、組合がまとめる形で対応しています。組合員の材料を使っていただくことで、業界全体が伸びたらいい。公共施設の木質化など、組合として桜井市の特色が出る提案をしていきたいと思っています」

が分業化された今、一社だけすべての資材をまかなえない。ですから企業や公共施設の建設に対しては、組合がまとめる形で対応しています。組合員の材料を使っていただくことで、業界全体が伸びたらいい。公共施設の木質化など、組合として桜井市の特色が出る提案をしていきたいと思っています」

が分業化された今、一社だけすべての資材をまかなえない。ですから企業や公共施設の建設に対しては、組合がまとめる形で対応しています。組合員の材料を使っていただくことで、業界全体が伸びたらいい。公共施設の木質化など、組合として桜井市の特色が出る提案をしていきたいと思っています」

が分業化された今、一社だけすべての資材をまかなえない。ですから企業や公共施設の建設に対しては、組合がまとめる形で対応しています。組合員の材料を使っていただくことで、業界全体が伸びたらいい。公共施設の木質化など、組合として桜井市の特色が出る提案をしていきたいと思っています」

が分業化された今、一社だけすべての資材をまかなえない。ですから企業や公共施設の建設に対しては、組合がまとめる形で対応しています。組合員の材料を使っていただくことで、業界全体が伸びたらいい。公共施設の木質化など、組合として桜井市の特色が出る提案をしていきたいと思っています」

が分業化された今、一社だけすべての資材をまかなえない。ですから企業や公共施設の建設に対しては、組合がまとめる形で対応しています。組合員の材料を使っていただくことで、業界全体が伸びたらいい。公共施設の木質化など、組合として桜井市の特色が出る提案をしていきたいと思っています」

が分業化された今、一社だけすべての資材をまかなえない。ですから企業や公共施設の建設に対しては、組合がまとめる形で対応しています。組合員の材料を使っていただくことで、業界全体が伸びたらいい。公共施設の木質化など、組合として桜井市の特色が出る提案をしていきたいと思っています」

が分業化された今、一社だけすべての資材をまかなえない。ですから企業や公共施設の建設に対しては、組合がまとめる形で対応しています。組合員の材料を使っていただくことで、業界全体が伸びたらいい。公共施設の木質化など、組合として桜井市の特色が出る提案をしていきたいと思っています」

が分業化された今、一社だけすべての資材をまかなえない。ですから企業や公共施設の建設に対しては、組合がまとめる形で対応しています。組合員の材料を使っていただくことで、業界全体が伸びたらいい。公共施設の木質化など、組合として桜井市の特色が出る提案をしていきたいと思っています」



奈良時代の遣唐使安倍仲麻呂、平安時代の陰陽師安倍晴明らを輩出した、安部一族の氏寺として645年に建立された「安倍文殊院」。金閣浮御堂（仲麻呂堂）には、仲麻呂、晴明の像が祀られている。



2018年竣工の桜井木材協同組合事務所。一般にも貸し出される会議室をはじめ、木材の魅力を広める役割を担う。



時代の変化と向き合う 老舗の勇氣ある決断

木材と並び、桜井市を代表する地場産業、そうめん業界も時代の変化という壁に直面した。創業一七一七年の老舗「三輪山本」もそのひとつ。「三輪そうめん山本」の名でご存じの方も多いかと思うが、創業三〇〇年を迎えた二〇一七年、クリエイティブディレクター佐藤可士和氏の力も借りてブランドディングをたてなおし、社名やロゴをあらためた。

代表取締役の山本太治氏は、その背景をこう語る。

「お中元やお歳暮のボリュームが徐々に小さくなってきていること、贈答用のそうめんを主力としている当社は大きく影響を受けています。バブル期のピーク時と比べ、ギフトの販売量は半減。この厳しい状況に退路を断つて再スタートに臨む覚悟を、社名やロゴの変更に込めました」

かつて、そうめんは簡単に食事を済ませたいときに頼れる存在だった。しかし、今では湯がく一時間ですら面倒に思う人も増えた

そうだ。そこで、電子レンジで調理できる商品をはじめとした新商品の開発に力を注ぐことに。直径〇・三ミリと一般的なそうめんの三分の一の超極細麺ながらコシのある「白髪」や、三分の二の「白龍」など、最新技術を活かした品々も、洗練されたパッケージとともに注目が集まっているという。

「おかげさまで、ブランドや商品デザイン刷新、新商品の開発等が奏功し、特に、インターネットを介した売り上げは伸びています」

そう語る山本氏によれば、三輪はそもそもそうめんの発祥の地であるという。

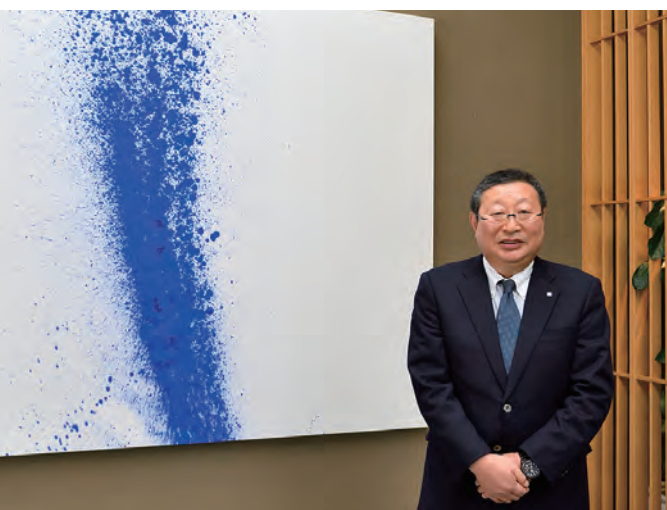
「二〇〇年から一三〇〇年前、仏教伝来とともに、小麦を栽培し粉にして保存食にする文化が日本に入ってきました。そのうちのひとつが、そうめんです。三輪は伊勢街道の途中にあり、江戸の中期からはお伊勢参りの人々がそうめん文化を各地に持ち帰り、全国に広まったといわれています」

一方で、桜井の人の気

質を語る山本氏の話も興味深いものがあった。

「桜井市をはじめ奈良県は、昔から、歴史的な資産で何とか食べていった。観光でも、修学旅行者が来てくれていればそれでいいと。地域に人を呼び込むための新しい取り組みをしてこなかった。ようやく最近、若い方々を含めいろいろなことを刷新しようとする人たちが出てきました。地域衰退への危機意識の表れかもしれませんが、こうした動きに大いに期待しています」

のんびりしている、焦りがない。今回、何度か耳にした話だ。まほ



三輪山本代表取締役の山本太治氏。背景を飾るのは、創業300年の折にコーポレートアイデンティティを手がけたクリエイティブディレクター佐藤可士和氏の作品。



三輪山本本社内にある直営ショップ。そうめんに加え、吉野くずを使った自社開発のスイーツなども扱っている。一角にはそうめんを干す過程の展示も。併設の食事処では、にゅうめんほか特製メニューを味わえる。



日本酒の聖地・三輪の名を世の中に広めるために

ろば……恵まれた環境が、現代の時流においては穏やかすぎる気質を育んだのかもしれない。

三輪にはもうひとつ、古い歴史を誇るものがある。日本書紀にも記される日本酒だ。大神神社は日本酒の聖地とされており、毎年

十一月には日本全国の蔵元が集まって醸造祈願祭が開催される。この聖地に、一六六〇年創業の今西酒造がある。代表取締役の今西将之氏は、二〇一一年、二八歳のとき父親が急逝し、引き継ぎがないまま酒造りに取り組むことになった。

当時は酒蔵のほかに飲食や宿泊業を営んでいたものの、経営は順調ではなかった。蔵の生産量はごくわずかで、従業員は三人。「三諸杉」の名は地元でもほとんど知られていなかった。こうした状況に今西氏は一念発起。多角経営をやめて酒造業一本にし、抜本的に酒造を改革した。結果、酒質を向上させ、今では業界で数々の賞を受けるなど注目を浴びる存在に。全国各地から取引依頼があり、従業員は三〇人を数えるまでになった。

「三輪は酒造りの始まりの地といわれており、三つの酒蔵があった。でも、残ったのはうちだけ。その責任の重さを親父も感じていたはず。多角経営に乗り出したのも赤字の酒造業を守るために、他の業に活路を見いだしたいという

ことだったようです」

当地が酒の聖地とされるのは、その歴史だけではなく、蔵の井戸に湧く三輪山の伏流水にもよる。酒の原料となる米もまた同じ水脈で育つ。

「三輪を飲む、が『みむろ杉』『三諸杉』のコンセプト。酒の神が宿る地、そしてその地で育まれた原材料で酒造りができるのは世界でもうちだけ。酒造りをするのになんか恵まれた所はない。でも、そんな三輪の酒が世間に知られていない状況だった。こんな悔しいことはない、三輪を表現する酒を造り、その酒を通して、三輪が認知され

るよう、人生をかけてがんばっていきたくと思っています」

今西氏は「三輪が酒の聖地」と認識してもらえようと、大神神社参道とJRR三輪駅前に直営店を出店。さらには、大神神社ほか三輪の日本酒にまつわる場所をまわり、最後は蔵で利き酒ができる「聖地巡査ツアー」をスタートさせた。

ガイドは、地元の主婦を自社で育成。周辺にある飲食店に積極的に立ち寄ることで、地元経済が潤う仕組みをつくっている。このツアーには、二年間で約五〇〇〇名が参加しているそうだ。今西氏の熱い思いを聞きながら、ほどよい



「みむろ杉」「三諸杉」を醸す、今西酒造代表取締役の今西将之氏。「三諸杉」は県内写真の「みむろ杉」は、主に県外で流通される。「三諸」とは、三輪山を含めた神が宿る場所という意味。



三輪山を御神体とする大神神社。主祭神は大物主大神。箸墓古墳に眠るといわれる、倭迹迹日百襲姫命と夫婦だったとの伝説が残る。



平安時代の 貴族も歩いたまちに 再びにぎわいを

「みむろ杉」「三諸杉」を味わい、今後も多くの人が三輪を訪れるのではないかと予感する。

大神神社と並ぶ桜井市の観光の要が、初瀬地区にある奈良時代創建ともいわれる長谷寺だ。藤原道長をはじめ貴族がこぞって詣でるようになった平安時代以降、参道を軸に広がる初瀬のまちは長きにわたりにぎわってきた。

「長谷寺さんは西国三十三所の札所でもあるし、年間何十万人と観光客が来られる。その状況に安閑としていたんですね。当初、われわれの集まりは下水道の設置を求める署名運動だったのですが、初瀬をもっと元気にしようという思いから、二〇〇五年にこのフォーラムを立ち上げました」

長谷寺へと続く門前町。初瀬の山でとれたよもぎをふんだんに使う、風味豊かな草餅を売る店が軒を連ね、土産物としても人気。わらしべ長者ののれんは全部で17枚あり、門前町を歩きながら物語を楽しめる。



「早稲田大学の学生さんが最初から長谷寺を望む景色に感激されたんですよ。われわれにとっては、

日常的に見慣れた眺めだったのですが……」

寺井氏はその後の学生たちのアイデアにも驚かされ、初瀬の良さを再認識したようだ。

「僕らは表通りだけを地図に載せれば良いと思っていました。でも、それだけではあかん、長谷寺に来られる方には、裏通りを含めて歩いてもらって、初瀬の良さを存分に味わってもらえるようにすべき、との提案を頂きました」

額田王、紫式部、菅原道真、本居宣長、松尾芭蕉など。実際に完成した散策ガイドを見れば、初瀬の地には、歴史を輝かしく彩った、実に多くの人々の面影が残っていることがわかる。ここ

で生まれ育った人には当たり前でも、学生たちには宝の山のように思えたことだろう。

「外の人の意見を入れたほうが、活性化しますね。昔からのしがらみのようなものもありましたが、新しい空気が入ったんです」

早稲田大学との連携は今も続いており、町家の改修や地元住民と来訪者との憩いの場所をつくるなど、まち再生のための試みが重ねられていく。高齢を理由に廃業する店もある一方で、初瀬に魅せられて移住し、新たにお店を始める人も。毎月十八日には、長谷寺が舞台の「わらしべ長者」の物語が描かれたのれんをまちに飾り、散策する人の目を楽しませるように



NPO 法人泊瀬門前町再興フォーラム理事長の寺井修司氏。後ろは古民家をリフォームして2018年7月に完成した「憩いの杜 くろもん」。初瀬門前町の一角にあり、観光客の休憩所や地元の人たちとの交流の場になっている。

市長の松井正剛氏によれば、玄関口であるJRおよび近鉄線桜井駅前の再開発が進み、二〇一九年春には駅前ビルがリニューアルされる。そこには、屋内型の遊び場を中心に新たなにぎわいと交流を創り出す施設がオープンする。全国チェーンのビジネスホテルも、桜井市への進出を決定した。そうめん業界も、官民が協力する体制ができてくると松井氏は

「おかげ横丁」のような活性化を指しているという。二〇一七年には返礼品をリニューアルしたふるさと納税「桜井ふるさと寄付金」は、以前の五〇〇万円から一億円と大幅に増えた。そ



高さ約32メートルを誇る大神神社の大鳥居が、桜井のまちを見守る。

もまた「変わるタイミング」を迎えているとのこと。奈良県の主導

未来へとつなげるために
まちは多彩に進化を目指す

もなった。最近では、隣接する地域のまちづくり団体との連携も増えつつあると寺井氏は話す。「連携の範囲が広がれば、もっといい形での情報発信ができるようになり、それが桜井市全体の認知度向上につながっていくのではないかと期待しています」



で大神神社の参道整備計画が進められ、将来的には伊勢神宮の参道「おかげ横丁」のような活性化を指しているという。市長の松井正剛氏によれば、玄関口であるJRおよび近鉄線桜井駅前の再開発が進み、二〇一九年春には駅前ビルがリニューアルされる。そこには、屋内型の遊び場を中心に新たなにぎわいと交流を創り出す施設がオープンする。全国チェーンのビジネスホテルも、桜井市への進出を決定した。そうめん業界も、官民が協力する体制ができてくると松井氏は

「奈良県三輪素麺工業協同組合、奈良県三輪素麺販売協議会が中心となった『三輪そうめん意見交換会』がスタート。『三輪そうめん』がGIマーク（地理的表示）の認証を受けたのに加え、二〇一七年には桜井市で三輪素麺普及促進に関する条例を制定しました。また二〇一八年、そうめん発祥の地である当市で『そうめんサミット』を開催するなど多彩な取り組みを行っています」

高さが約32メートルを誇る大神神社の大鳥居が、桜井のまちを見守る。



桜、あじさい、ばたんなど四季を通じて花々に彩られ、「花の御寺」とも呼ばれる長谷寺。紅葉の秋の景色も美しい。本堂まで続く登廊は上中下の三廊に分かれ、合わせて399段を数える。

話す。

の活用先として第一に掲げられているのは、纏向遺跡の調査研究保存事業の推進だ。遺跡の修復や観光施設の建設が進めば、木材業界にも朗報となるだろう。

高さが約32メートルを誇る大神神社の大鳥居が、桜井のまちを見守る。